

# 新市庁舎に

# みんなで「ひろば」を

ワークショップ

# つくる会議

報告書  
平成29年4月

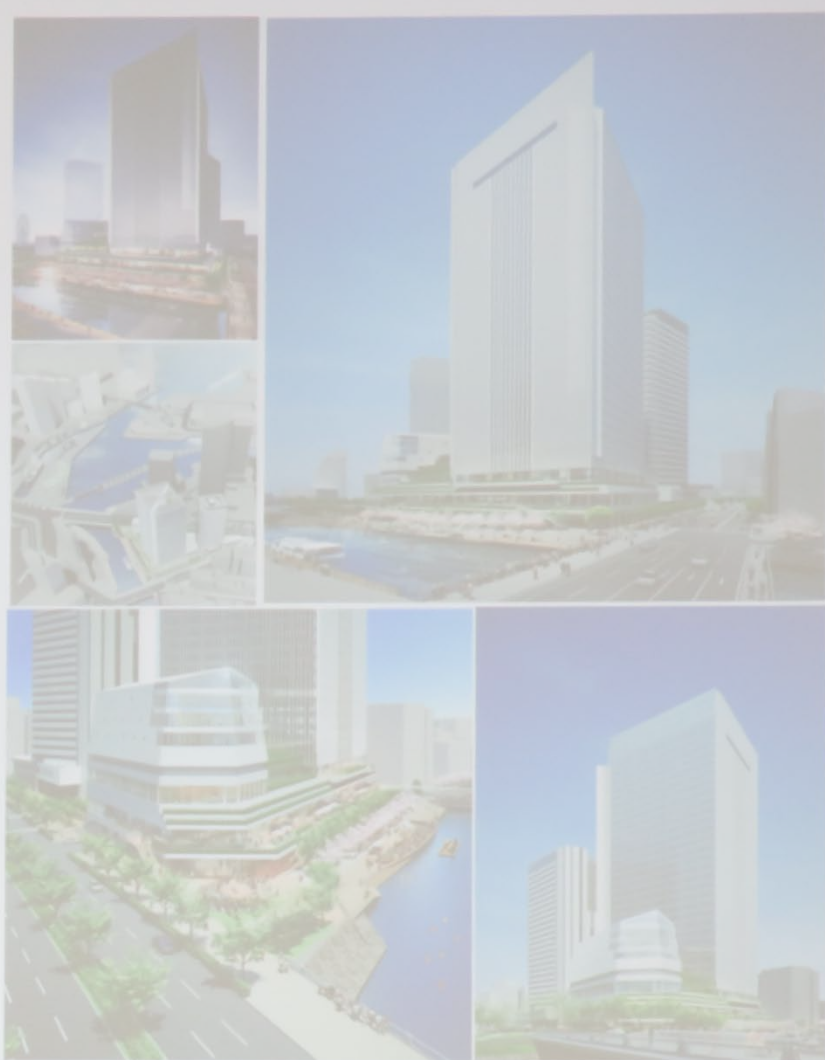
# 目次

I.	はじめに	01
	1. ワークショップの目的	02
	2. ワークショップの位置づけ	02
	3. スケジュール	02
	4. 運営体制	02
II.	概要	03
	1. 前半	03
	第1回ワークショップ	04
	第2回ワークショップ	06
	第3回ワークショップ	08
	前半ワークショップ(第1回～第3回)のまとめ	10
	2. 後半	12
	第4回ワークショップ	13
	第5回ワークショップ	15
	第6回ワークショップ	17
	後半ワークショップ(第4回～第6回)のまとめ	19
III.	活動をふりかえって	21
IV.	今後に向けて	23

# 横浜市 新市庁舎に みんなで 「ひろば」 をつくる会議

～新市庁舎の「ひろば」を  
考えるワークショップ～

平成28年6月24日（金）  
平成28年6月25日（土）  
平成28年7月31日（日）



## I. はじめに



## 1. ワークショップの目的

横浜市は、新市庁舎の整備にあたり、低層部に屋根付き広場(アトリウム)、市民利用機能、商業機能などの「ひろば」を設け、誰もが集い、親しみ、憩う、ホスピタリティある空間づくりを目指しています。

この低層部において賑わいと活力を創出するためには、多くの皆さまに訪れていただくことが重要です。市庁舎に来訪するという目的性を高めるためには、実際に訪れることとなる市民の皆さまがどのような空間・機能を望んでいるかということを理解することがまず重要になります。

そこで、基本設計などの施設計画や事業者選定の方針などの管理運営の方向性を検討する28年度において、「新市庁舎低層部の活用アイデア」や「運営に求められる姿勢」などについて、市民の皆さまとの対話の機会を設けて、幅広く意見をお伺いしました。

## 2. ワークショップの位置付け

本ワークショップにおいては、施設計画と管理運営の方向性を整理するという横浜市の目的に沿って、運営しました。このため、得られた知見については、横浜市としての方向性を検討する上で重要であるため、施設計画と管理運営の計画づくりに生かしていきます。

また、参加者の皆さまへのフォローアップや参加者以外の皆さまへの情報提供も重要であるため、引き続き、情報発信を行います。また、横浜市内部のプロジェクトにおいても、情報共有する機会を設けており、将来に向けてよりよい管理運営につながるような取組を関係局が連携して実施していきます。

## 3. スケジュール

【前半】 低層部の「ひろば」でどんな活用ができるか	【後半】 低層部の「ひろば」の運営に必要なこと
・第1回 平成28年 6月24日(金)	・第4回 平成28年11月21日(月)
・第2回 平成28年 6月25日(土)	・第5回 平成28年12月20日(火)
・第3回 平成28年 7月31日(日)	・第6回 平成29年 1月20日(金)

## 4. 運営体制

- ・主催者 … 横浜市総務局新市庁舎整備担当
- ・ファシリテーター… 野原卓准教授(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院)
- ・運営サポート … 竹中・西松建設共同企業体、株式会社楨総合計画事務所

### A ひろば

こういう場所にしたらい

# 緑と水と風を感じる開放的空間

このアイデアを実現するために必要な要素や、実現に向けた具体的なアクションプランが整理されています。

### B ひろば

こういう場所にしたらい

# 市民による市民の為

市民が主体的に関与できる仕組みや、地域資源を活用する方法が提案されています。

### C 水辺

こういう場所にしたらい

# 横浜臨海部水辺全体の拠点

環境、防災安全、水上交通、居住地の4つの観点から、水辺全体の発展を促すための提案がまとめられています。

### D 水辺

こういう場所にしたらい

# や、は、手漕ぎしゅん!

水辺でのレジャーや、水辺改善のための具体的な施策が示されています。

## II-1. 概要 前半

### E 市民協働空間

こういう場所にしたらい

# 市民協働 ⇒ スパイラル

市民協働の具体的なプロセスや、持続可能なコミュニティづくりのヒントが提供されています。

### G 展示回廊

こういう場所にしたらい

# 横浜みらいスクール

展示回廊を通じた学びや、市民が参加できる様々なプログラムが紹介されています。

### I サービスサポート

こういう場所にしたらい

# 世代を問わずハンデキャップの有無を問わず 様々な人が笑顔で安心して過ごせる場所

誰もが安心して利用できるサービスや、支援体制の構築が提案されています。

### J サービスサポート

こういう場所にしたらい

# 子どもも大人も気軽に集える低層部に

低層部を活用したコミュニティの形成や、子育て支援などの取り組みが示されています。

# 第1回ワークショップ

## 低層部の活用アイデアをできるだけ多く考えよう

日時：平成28年6月24日(金)

参加者：43名

18:30 - 21:00

成果：アイデアシート 213案

場所：横浜アイランドタワー17階

：発表シート 41案

### 目標

- ・低層部の活用について数多くアイデアを出す。
- ・参加者の意見を踏まえ、アイデアを深める。

前半3回のワークショップでは、できるだけ多く、活用アイデアを出してもらいました。個人でアイデアを出した後に、グループワークで検討を深めました。

#### (1)主催者の説明

主催者横浜市が、横浜市市庁舎移転新築工事の概要を説明しました。新市庁舎デザインコンセプトブックに基づいて、新市庁舎整備とまちづくり、今回のワークショップの位置づけ、平成28年5月に開催した方面別シンポジウムでのアイデアを紹介しました。



主催者の説明

#### (2)設計者の説明

次に、設計者が、計画概要とデザインコンセプトを説明しました。また、ワークショップの検討範囲である低層部(1階～3階)の概要を説明しました。



設計者の説明

#### (3)ファシリテーターの説明

続いて、ファシリテーターが、国内外の事例を紹介しながら、ワークショップで考えるアイデアの大きな方向性について説明しました。



ファシリテーターの説明

#### (4)個人ワーク

参加者は、ファシリテーターの説明を聞きながら、低層部の活用アイデアをできるだけ多く考えました。

アイデアを実施したい場所を、机上の平面図にシールで印をつけました。



アイデアを考える参加者

#### (5)グループワーク

グループ内で自己紹介をした後に、司会進行役を決めました。

個人ワークで考えたアイデアをグループメンバーに説明し、自由に意見をもらいました。

メンバーの意見をもとに自分のアイデアを更にブラッシュアップさせ、発表用のアイデアを一つ完成させました。



グループワーク

#### (6)アイデア発表

参加者全員が自分で考えたアイデアを順番に発表しました。

「多様なチャレンジが生まれるように、オープンな設えの方が良い」「シティセールスを行うための映像を駆使した情報発信」「効果的な映像・音響設備によるにぎわいの創出」等、多くのアイデアがありました。

アイデアを全て壁に貼り出し、良いアイデアだと思うもの7つに投票しました。

第1回ワークショップで出たアイデアの合計は254案でした。



参加者の発表



壁一面に貼り付けられたアイデア

## 第2回ワークショップ 低層部の活用アイデアをできるだけ多く考えよう

日時：平成28年6月25日(土)

参加者：30名

13:30 - 16:00

成果：アイデアシート 118案

場所：横浜アイランドタワー17階

：発表シート 30案

### 目標

- ・低層部の活用について数多くアイデアを出す。
- ・参加者の意見を踏まえ、アイデアを深める。

第1回と第2回のワークショップは同じ内容ですが、それぞれ異なる市民の方に参加頂きました。

#### (1)主催者の説明

今回も、主催者横浜市が、横浜市市庁舎移転新築工事の概要を説明しました。新市庁舎デザインコンセプトブックに基づいて、新市庁舎整備とまちづくり、今回のワークショップの位置づけ、平成28年5月に開催した方面別シンポジウムでのアイデアを紹介しました。



主催者の説明

#### (2)設計者の説明

次に、設計者が、計画概要とデザインコンセプトを説明しました。また、ワークショップの検討範囲である低層部(1階～3階)の概要を説明しました。



設計者の説明

#### (3)ファシリテーターの説明

続いて、ファシリテーターが、国内外の事例を紹介しながら、ワークショップで考えるアイデアの大きな方向性について説明しました。



レクチャーを聞く参加者



#### (4)個人ワーク

参加者は、ファシリテーターの説明を聞きながら、低層部の活用アイデアをできるだけ多く考えました。

アイデアを実施したい場所を、机上の平面図にシールで印をつけました。



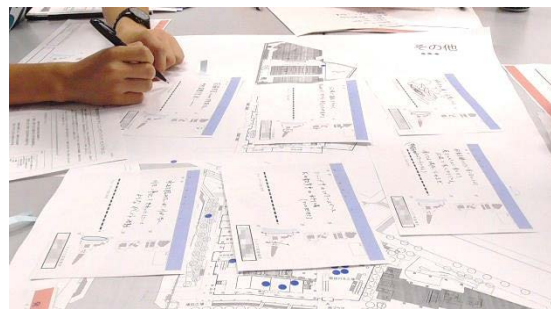
アイデアを考える参加者

#### (5)グループワーク

グループ内で自己紹介をした後に、司会進行役を決めました。

個人ワークで考えたアイデアをグループメンバーに説明し、自由に意見をもらいました。

メンバーの意見をもとに、自分のアイデアを更にブラッシュアップさせ、発表用のアイデアを一つ完成させました。



グループワーク

#### (6)アイデア発表

参加者全員が自分で考えたアイデアを順番に発表しました。

「子育て世代が来庁しやすくなる一時預かりなどのサービスがあると良い」「大岡川を生かした水辺アクティビティを受け入れる環境があると良い」「市民も職員も気軽に休めるとよい」等多くのアイデアがありました。

アイデアを全て壁に貼り出し、良いアイデアだと思うもの7つに投票しました。

第2回ワークショップで出たアイデアの合計は148案でした。



参加者の発表



投票

# 第3回ワークショップ 活用アイデアをまとめて運営につなげよう

日時：平成28年7月31日(日)

参加者：39名

15:00 - 17:30

成果：グループワーク 8班

場所：YCC ヨコハマ創造都市センター3階

：キャッチフレーズ 38案

## 目標

- ・場所別に「こういう場所にしたい」をまとめる。
- ・低層部のキャッチフレーズを考える。

第1回、第2回の結果も参考にしながら、低層部の場所別にグループワークを行いました(「ひろば」「水辺」「市民協働空間」「展示・回廊」「サービス・サポート」)。

### (1)主催者の説明

主催者横浜市が第1・2回に説明した事業概要等に加え、ワークショップ全体の成果を新市庁舎の施設計画と管理計画への反映を検討する旨を説明しました。「新市庁舎で創出すべき新たな価値は何か」という投げかけとともに、第1回と第2回のワークショップの概要とアイデアの一部を紹介しました。



主催者の説明

### (2)設計者の説明

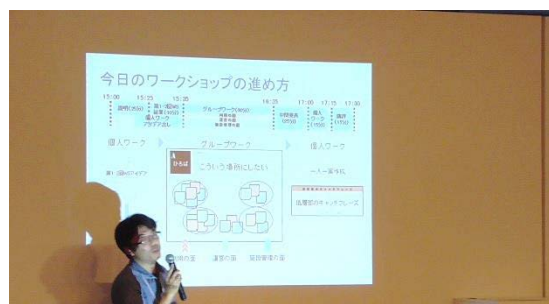
次に、設計者が、市庁舎の計画概要、デザインコンセプトを説明し、また、ワークショップの提案対象となる低層部の概要を説明しました。



設計者の説明

### (3)ファシリテーターの説明

続いて、ファシリテーターが、第1回と第2回の結果をキーワード別に整理したものを紹介しました。また、低層部の場所別に想定される大きな方向性を説明しました。



ファシリテーターの説明

#### (4)グループワーク

参加者は、ファシリテーターの説明を聞きながら、3つの活用アイデアをそれぞれ考え、グループ内で説明しました。

各アイデアに対し、「利用の面」「運営の面」「施設管理の面」の3つの視点で議論し、グループに割当てられた場所の「こういう場所にしたい」をまとめました。



グループワーク

#### (5)グループ発表

グループごとに「こういう場所にしたい」を発表しました。

- ひろば 班 :① 緑と水と風を感じる開放的空間  
:② 市民による市民の為のひろば
- 水辺 班 :① 横浜臨海部水辺全体の拠点  
:② やっぱ手漕ぎじゃん！！
- 市民協働空間 班 :① 市民協働⇒育ちのスパイラル
- 展示・回廊 班 :① 市民が作る！！横浜みらいスクール
- サービス・サポート 班 :① 世代を問わず、ハンディキャップの有無を問わず、様々な人が笑顔で安心して過ごせる場所  
:② 子供も大人も気軽に集える低層部に

#### (6)個人ワーク

グループ発表を踏まえ、低層部のキャッチフレーズを一人1案ずつ考えました。



グループワークの模造紙とキャッチフレーズ

#### (7)ファシリテーターの講評

グループ発表と個人で考えたキャッチフレーズに対し、ファシリテーターが講評し、前半の内容を総括するとともに、後半は運営に焦点を当てていくことを説明しました。



ファシリテーターの講評

# 前半ワークショップ(第1回～第3回)のまとめ

## (1)前半ワークショップの目標

### 第1回・第2回目標

- ・低層部の活用について数多くアイデアを出す。
- ・参加者の意見を踏まえ、アイデアを深める。

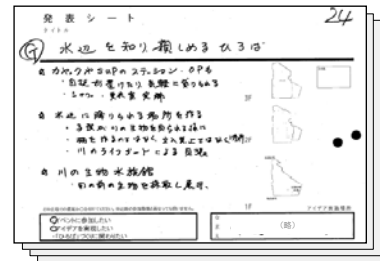
### 第3回目標

- ・場所別に「こういう場所にしたい」をまとめる。
- ・低層部のキャッチフレーズを考える。

## (2)アイデアの整理

前半ワークショップで出たアイデアを集計、分類、整理し、基本設計に反映させるアイデアと後半ワークショップで反映を目指すアイデアを整理しました。

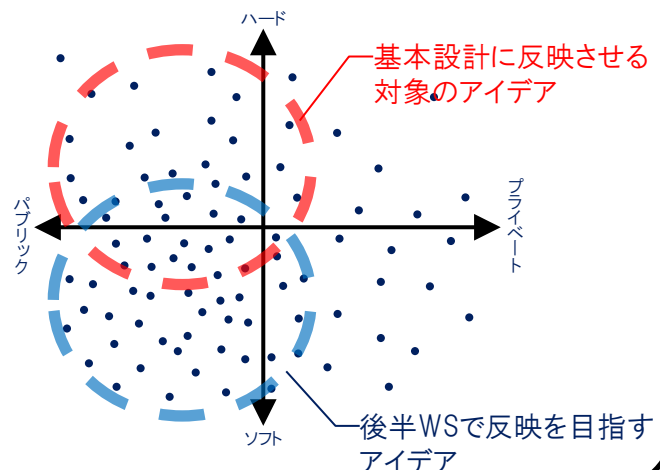
### ① 参加者のアイデアを集計



### ② アイデアの分類・整理(一覧表)



### ③ アイデアをハードとソフト、パブリックとプライベートの四象限マトリクスから整理



(3)基本設計への反映

ワークショップで出たアイデアを空間や機能別に分類し(①～⑤)、基本設計に反映する内容をまとめました。

① ひろば

② 水辺

③ 展示・回廊

④ 市民協働空間

⑤ サービス・サポート

**ワークショップの多様な意見から設計チームが抽出したテーマ**

市を代表するイベント・にぎわい空間、メディア等への発表用空間、市の情報を発信するための空間、平時に訪れたい憩いの空間など、イベント時も平時も魅力ある空間とする。

外部空間と内部空間のつながり、河川の取り込み、周辺街区や歴史的資源などを意識した空間とする。6,000人の職員の存在や市民の来訪等を含めた、新たな流動の変更について再整理し、モビリティを考慮した空間とする。

横浜市のプロジェクトや先端的な政策、公民学連携、歴史的資源などが魅力的に発信されるようなプレゼンテーション機能を有する展示空間とする。歩いて楽しめる“街のような”低層部とするために、建物内、上下階、デッキ等の回遊性を高める。

370万人の横浜市民の協働、創造的な市民共創を生み出し、これを国内外に発信する、いわば「ラボ」となるような空間とする。「開かれた市庁舎」という目標を体現するために、気軽に市職員との距離を縮める、市民と職員の接点がうまれるような空間とする。

店舗空間は、自由度の高い柔軟な空間として位置づけ、横浜ならではの商品購入や、クリエイティブチャレンジなどが活きる空間とする。子どもがいても訪れられる、子どもからお年寄りまで居心地の良い市庁舎として設える。

**基本設計への反映**

屋根付き広場には、溜まり場空間やイベント時に使える電源を設けるとともに、市の情報を発信することもできる賑わい施設を確保した。また、各ひろばが憩いの場になるように、ベンチ等の家具を設え、シンボルツリーによる特徴づけをした。

水辺に面するところには、大きな開口部を設けたり、オープン・カフェ・スペースを確保した。水辺に面するひろばには、遺構を展示している。また、モビリティを考慮して、様々な方向から水辺に降りられるようにスロープを設置して親水性を高めた。

市政や都市づくり等の発信をすることも可能な賑わい施設を設けたり、発掘した遺構を展示するスペースを設けた。また、回遊性を高めるために動線を幅広く、動線上の展示スペースは、立体的な展示が可能な設えとした。

市民協働スペースは、創造的な市民共創を生み出せるように、水辺やひろばとの一体性を重視するとともに、幅広い使い方に対応できるように設えた。また、要所に家具を配置することで、市民と職員が相談等を行えるようにした。

商業施設の間仕切り壁は様々なレイアウトに対応できるようにした。横浜ならではの店舗空間とするために、水辺に開いたオープン・カフェ・スペースを確保した。また、子ども連れでも訪れられるようにベビー休憩室を設置した。

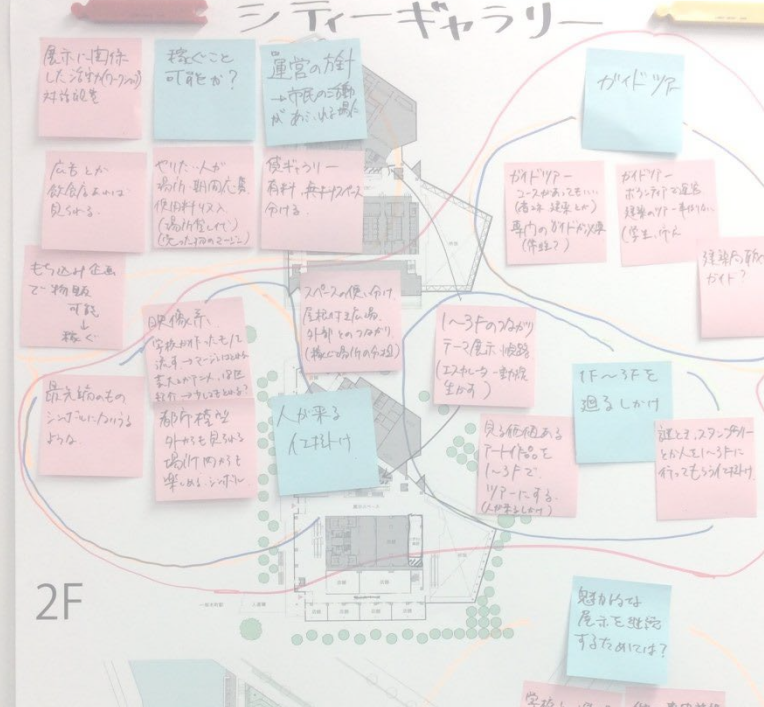
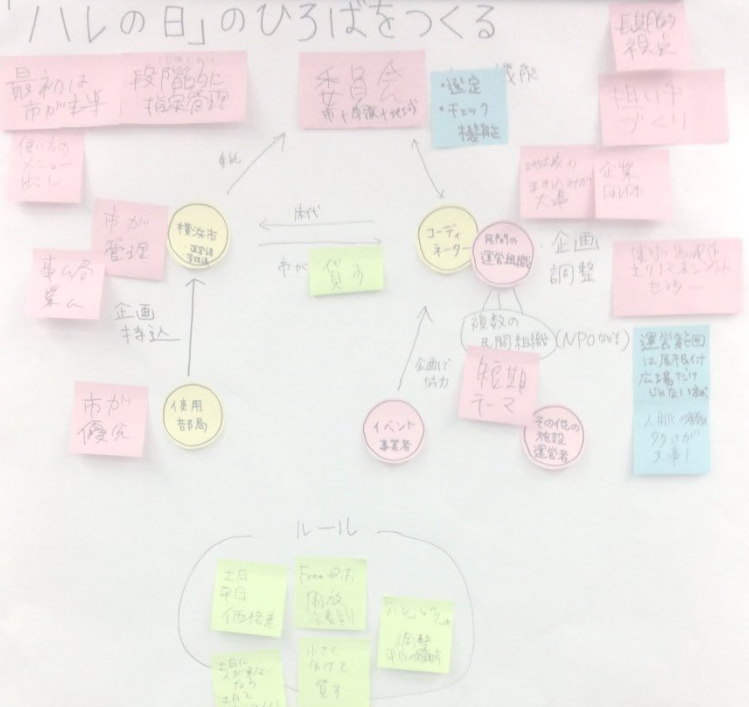
(4)ワークショップを踏まえて立てた仮説

前半の結果を踏まえ、運営について検討する後半に向けて求められることを整理しました。

<p>ひろば</p> <p>自然とひとびとの集まるプラザにイベント時も平時も魅力ある空間に</p>	<p>水辺</p> <p>外と内の繋がり 快適な水辺活用 水辺「を」開く 周辺の歴史的資源 新たなモビリティ</p>	<p>展示・回廊</p> <p>市のプロジェクトや政策、公×民×学の連携を魅力的に発信</p>	<p>市民協働空間</p> <p>創造的な市民共創 国内外への意識 市庁舎の中にある協働空間の特徴</p>	<p>サービス・サポート</p> <p>オープンでフレキシブル 子どもにも人気な開かれた空間</p>
---	--	---	---	--

ワークショップ報告書

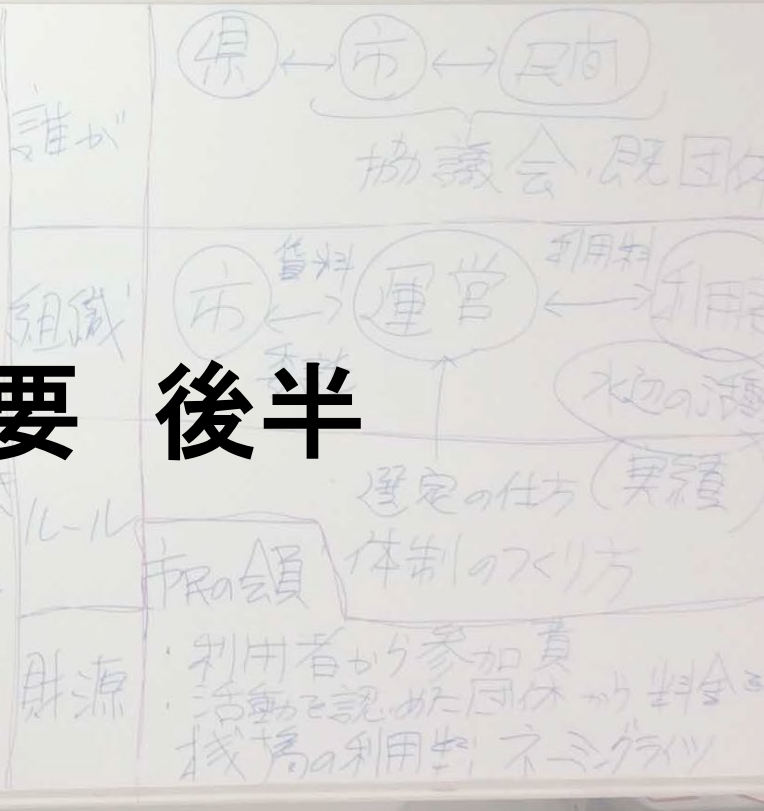
横浜市市庁舎移転新築工事 11



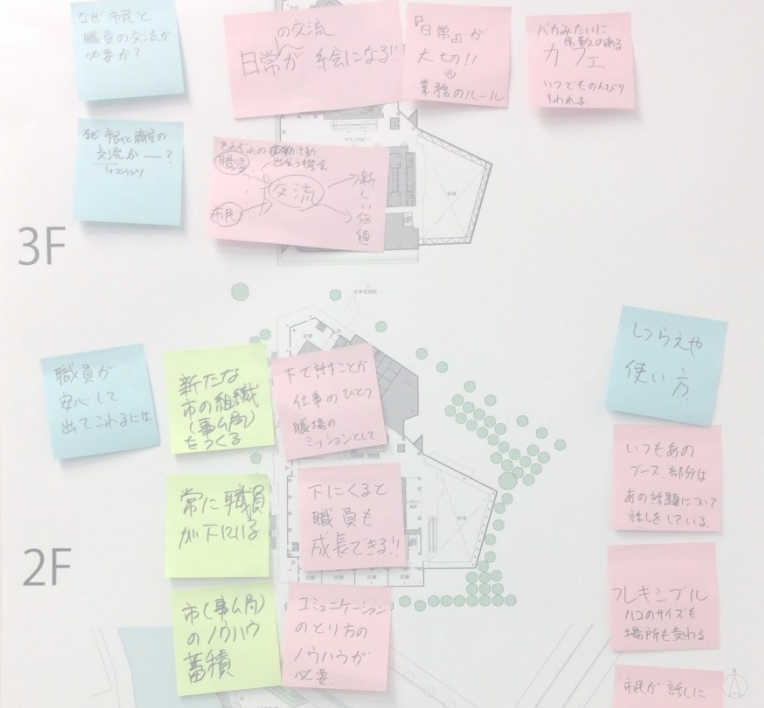
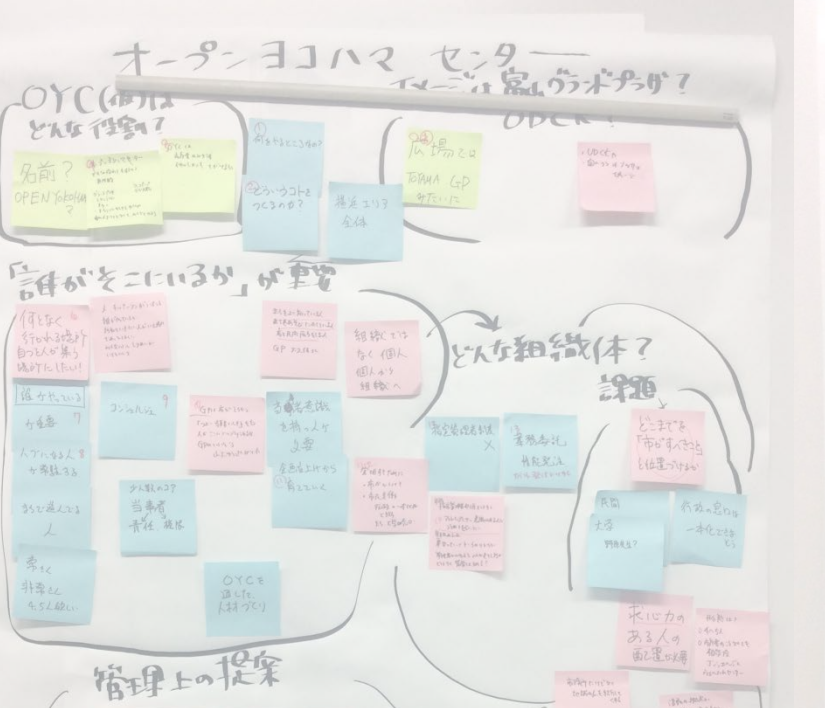
水辺

- shopをきいて
- マッドアへの中心
- 市民グループと連携
- 団体間の連携
- 桜元町
- 環境...水質の改善
- 観光...ゴミ回収
- 護岸の掃き掃除
- 水上交通
- 市庁舎の玄関は大岡川。

● 期間限定  
 親和性  
 ● とが、たヨリモ  
 (例) 水辺荘  
 1~2Fは役人...  
 ● 水辺の出入の動き  
 多くの人の目に触れ



## II-2. 概要 後半



# 第4回ワークショップ 「ひろば」の運営に求められるルール・機能を抽出しよう

日時：平成28年11月21日(月)

参加者：33名

18:30 - 21:00

成果：グループワーク 6班

場所：横浜アイランドタワー17階

## 目標

・6つのテーマ別に、活動内容・組織・ルール・財源等の運営方法を考える。

後半3回は運営について検討しました。第4回は、前半をもとに6つのテーマを設定し、議論しました(快適な環境づくり、回遊性の創出、市政情報発信、横浜らしい展示、キッカケづくり、創造的協働とマネジメント)。

### (1)主催者の説明

主催者横浜市が前半ワークショップを含めた今までの検討の流れや後半3回の全体構成を紹介しました。

また、前半ワークショップなどを踏まえて、新市庁舎で創出すべき新たな価値の方向性として、6つのテーマを3つに分類して説明しました。



主催者の説明

### (2)設計者の説明

次に、設計者が、計画概要と前半ワークショップの内容を受けて設計に反映させた内容を説明しました。



設計者の説明

### (3)ファシリテーターの説明

ファシリテーターが、後半ワークショップで参加者に議論してほしいことを説明し、グループワークのテーマに対して、議論を喚起させる国内外の事例を紹介しました。



ファシリテーターの説明

#### (4)グループワーク

各テーマに対して運営に求められることとして、「どのような活動・内容を」「誰が(誰が運営し誰が参加する)」「どのような組織で(運営し)」「どのようなルールがあるか」「(必要な場合)どのような財源があるか」を個人で考えた後、グループで説明し、メンバーから意見をもらいました。



グループワーク

#### (5)個人ワーク

メンバーの意見をもとに、運営に求められることについて検討を深め、ワークシートを完成させました。



個人ワーク

#### (6)グループ発表

グループごとにどのような議論を行ったか、発表しました。

「低層部全体の活用を考えると、全体の利用をコーディネートする存在が必要ではないか」「市民へわかりやすく伝える発信方法を検討したい」「市民と職員の接点となる場が必要ではないか」「市民活動等を未来へ発信することも検討したい」「活用の企画立案、実施調整等を行う仕組みが必要ではないか」など、今後運営を検討する上で重要な観点が示されました。



参加者の発表

#### (7)ファシリテーターの講評

ファシリテーターが、今回の意見から運営を具体化する際の検討のポイントが見えてきた、と講評しました。



ファシリテーターの講評



# 第5回ワークショップ 「ひろば」の運営に求められる仕組みを考えよう

日時：平成28年12月20日(火)

参加者：21名

18:30 - 21:00

成果：グループワーク 5班

場所：横浜アイランドタワー17階

## 目標

・これまでの意見から5つの仮説を設定し、運営主体、組織、ルールを考える。

第5回は、これまでの意見から5つの仮説を設定し、議論しました(日常的な市民と職員の交流を生み出す、水辺だけじゃない水辺活動、都市・横浜をプレゼンテーションする「シティギャラリー」、「ハレの日」のひろばをつくる、「ひろば」活用の企画立案・実施調整を行う仕組み「オープンヨコハマセンター」)。

### (1)主催者の説明

主催者横浜市が、今までの検討内容を紹介しました。

また、第1回～第4回の結果から想定される課題を参加者に説明しました。



主催者の説明

### (2)ファシリテーターの説明

ファシリテーターが、低層部の運営を検討する際に必要な全体を俯瞰した視点を参加者へ紹介するために、主催者と質疑応答を行いました。



ファシリテーターと主催者の質疑応答

### (3)仮説の紹介

第1回～第4回の意見をもとに、市職員が考えた5つの仮説を説明しました。

参加者は自分が議論したい仮説を選択し、グループワークに移りました。



仮説の紹介

#### (4)グループワーク

「5つの仮説」を前提として、それを実現するために「誰が」「どのような組織で」「どのようなルールが(必要か)」「どのような財源があるか」などを自由に議論しました。



グループワーク

#### (5)グループ発表

グループごとに、検討した結果を発表しました。

仮説1: 日常的な市民と職員の交流を生み出す

- ・市民と職員の会話を誘発する仕掛けとマネジメントが必要
- ・市民と職員が出会い、新しい価値を生み出すための機会づくりが重要

仮説2: 水辺だけじゃない水辺活動

- ・水辺を活用したい市民が広範囲に物事を動かしやすい体制が必要
- ・店舗やアトリウムも巻き込んだ水辺の活動が必要

仮説3: 都市・横浜をプレゼンテーションする「シティギャラリー」

- ・魅力的な展示を継続するために、有償無償を問わずコンテンツ提供元を増やすことが必要
- ・新市庁舎のガイドツアーをボランティアや職員が実施することが必要

仮説4: 「ハレの日」のひろばをつくる

- ・地域のイベントと連動し、担い手づくりを行うことが必要
- ・常に新鮮な活動内容にするために、多彩なプレイヤーを巻き込むことが必要

仮説5: 「ひろば」活用の企画立案・実施調整を行う仕組み「オープンヨコハマセンター」

- ・ルールを最低限にしてオープンで柔軟な運営を行うことが重要
- ・「ジブンゴト」として取り組む人を呼び込む運営が必要



グループ発表

#### (6)ファシリテーターの講評

ファシリテーターが、「ひろば」の目指す姿や運営に求められる姿勢など、最終回に向けて貴重な意見が多くあった、と講評しました。

## 第6回ワークショップ 「ひろば」運営のキャッチフレーズを考えよう

日時：平成29年1月20日(金)

18:30 - 21:00

場所：横浜アイランドタワー17階

参加者：18名

成果：みんなの「ひろば」宣言

：わたしの「ひろば」宣言18名分

### 目標

- ・みんなの「ひろば」宣言を検討する。
- ・参加者がわたしの「ひろば」宣言を考える。

第6回は、第1回～第5回の議論をもとに、みんなの「ひろば」宣言を参加者も主催者も輪になってワークショップチームとして議論しました。

最後に、参加者が、わたしの「ひろば」宣言を発表しました。

#### (1)ファシリテーターの説明

ファシリテーターが、全員フラットな立場で建設的な議論を交わしながら、みんなの「ひろば」宣言を検討したい、と説明しました。



ファシリテーターの説明

#### (2)みんなのひろば宣言(案)の説明

主催者横浜市が、議論のたたき台として、みんなの「ひろば」宣言(案)を説明しました。



みんなの「ひろば」宣言(案)の説明

#### (3)みんなの大会議

参加者全員で、みんなの「ひろば」宣言(案)の内容を検討しました。参加者から「開放的で柔軟であること」、「未来志向であること」、「新しいチャレンジを後押しすること」、「多様性を受け入れること」等、新市庁舎をより良い場所にするための積極的な意見が多く出されました。



みんなの大会議

#### (4)個人ワーク

みんなの「ひろば」宣言を受けて、参加者は、わたしの「ひろば」宣言(自分はこれから何をするか)を検討しました。

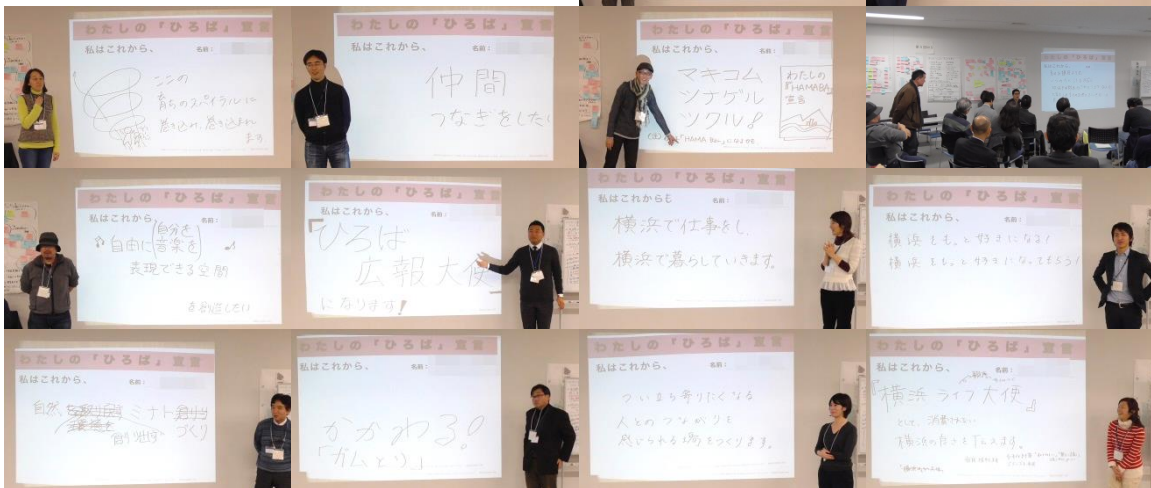
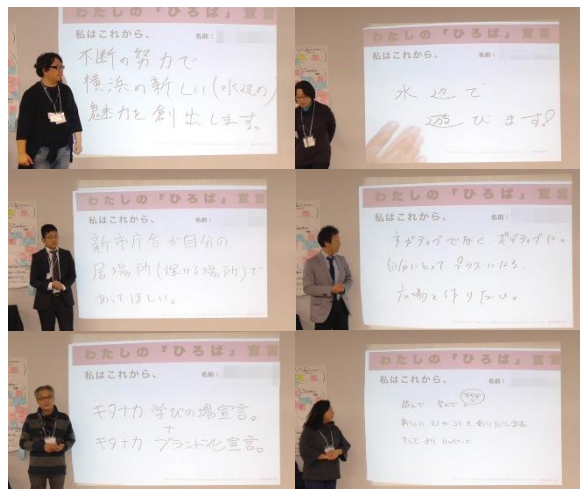


わたしの「ひろば」宣言を考える参加者

#### (5)わたしのひろば宣言発表

参加者が一人ずつ、わたしの「ひろば」宣言を発表しました。

新市庁舎の「ひろば」完成に向けて今から「ひろば」を盛り上げる意気込みや方法をそれぞれ語りました。



参加者の発表

#### (6)ファシリテーターの講評

ファシリテーターが全体講評を行い、新市庁舎のオープンに向け、それぞれの立場で継続的に関わり、みんなで「ひろば」をつくっていくことを共有しました。



ファシリテーターの講評



平成28年度に行った「新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議」の成果として、  
【みんなの「ひろば」宣言】をまとめます。

みんなの「ひろば」会議の開催状況



開催期間：28年6月～29年1月

テーマ：  
(前半)「豊かな市民生活や活動が育まれる新市庁舎低層部をみんなで考えよう」  
(後半)「豊かな市民生活や活動が育まれる新市庁舎低層部を実現する運営をみんなで考えよう」

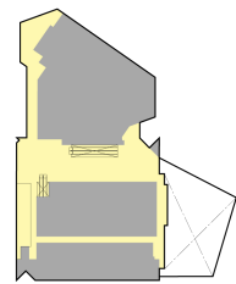
参加延べ人数：約200名(全6回)

新市庁舎のみんなの「ひろば」



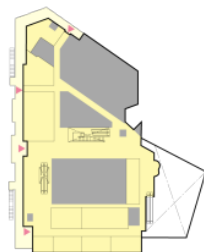
水際線プロムナード  
・水辺広場等の外構

市民ラウンジ



3F

展示スペース等の  
オープンスペース



2F



屋根付き広場  
(アトリウム)

1F

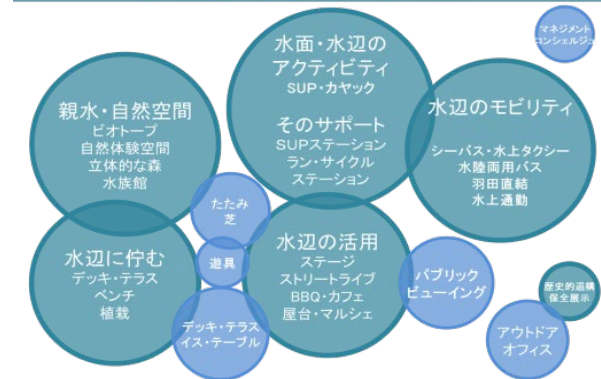
「ひろば」とは、新市庁舎の低層部全体の空間、  
そこで行われる活動、そして、  
それらを創出していくマネジメントを示しています。

みんなの「ひろば」の活用アイデア

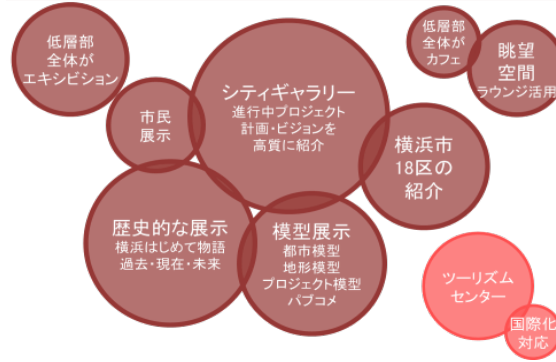
アイデアのキーワード：ひろば



アイデアのキーワード：水辺



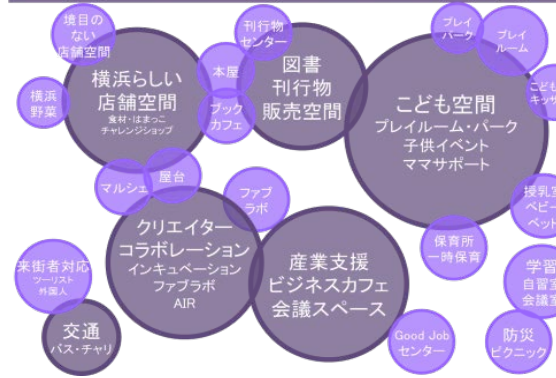
アイデアのキーワード：展示・回廊



アイデアのキーワード：市民協働空間



アイデアのキーワード：サービス・サポート



ワークショップの結果を踏まえて立てた仮説

**AB ひろば**  
自然とひとびとの  
集まるプラザに  
イベント時も平時も  
魅力ある空間に

**CD 水辺**  
外と内の繋がり  
快適な水辺活用  
水辺「を」開く  
周辺の歴史的資源  
新たなモビリティ

**EF 市民協働空間**  
創造的な市民共創  
国内外への意識  
市庁舎の中にある  
協働空間の特徴

**GH 展示・回廊**  
市のプロジェクトや政  
策、公×民×学の連  
携を魅力的に発信

**IJ サービス  
サポート**  
オープンで  
フレキシブル  
子どもにも人気な  
開かれた空間

「新市庁舎のミッション」(横浜市新市庁舎デザインコンセプトブック)  
～開港の街から持続可能で豊かな国際都市へ～  
人、自然、街がつながる開かれた市庁舎を具現化し、  
市民と共にOPEN YOKOHAMAを創出する

ここでわたしが横浜の『未来』をつくる！シェアする！

みんなの宣言の中で「わたし」がつくり「シェア」する意義  
わたしの「ジブンゴト」を全体に還元すること、  
そして、これからも継続して関わっていくこと。

未来をつくり、シェアする「ひろば」。実現のための5つの“軸”

【オープンでフレキシブルな運営を行うこと】

- 禁止事項ゼロになるような、前向きな運用を行うこと
- 使い方が柔軟であるための可変性を空間が持っていること
- 関係スタッフの姿勢が親しみやすく、臨機応変であること

【「ひろば」でのチャレンジ・トライアルを勇気づけること】

- クリエイティブな活動、トライアルのエラーに寛容であること
- 活動のプロセスや、感性価値を大切にすること
- 活動の幅を広げて、豊かさにつなげていくこと

【横浜のローカルからグローバルまでを捉え、未来志向に立つこと】

- 横浜全体・18区のことを深く知り、発信していくこと
- 横浜の歴史を背景として、シビックプライドを醸成すること
- 未来志向を持って、真の国際性を獲得すること

【「ひろば」での多様な「ジブンゴト」を受け入れること】

- 「ジブンゴト」として取り組む人の自己実現を励ますこと
- 様々な参加の形と度合いを認めること
- 「ジブンゴト」は他への思いやりも包含していること

【バリアのない、ユニバーサルで開放的な雰囲気をつくること】

- 誰でもいつでも「ひろば」に共存できること
- 市民と職員の垣根を取り払い、交流を促すこと
- 市役所らしくない雰囲気を持っていること

未来をつくり、シェアする「ひろば」。7つの“場”



イメージ写真：横須賀美術館の広場と憩いの空間

誰でもいつでも居心地よく過ごせる場



イメージ写真：アーバンデザインセンター柏の葉で行われている「公民学」の連携

未来の横浜を生み出す「創造的協働」の場



イメージ写真：シビルウェディングなどの「ハレ」の日イベント、美味しい日常のお店

新たな出会いや発見の場



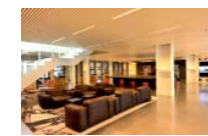
イメージ写真：歴史を生かした建物「ヨコハマ創造都市センター」で行われるカフェ

横浜らしい魅力を発信し、創造する場



イメージ写真：大岡川沿いの親水空間など他施設との連携

水辺や周辺の街とつながる場



イメージ写真：オープンな対話を演出するロッテルダム市庁舎分館のロビー

市民と職員の「交流」の場



イメージ写真：データと映像に触れられるアルスエレクトロニカのシティギャラリー

横浜の歴史・現在を知り、未来を考える場

⇒ 5つの軸と7つの場を実現するためには、「ひろば」全体をマネジメントする仕組みと主体が求められる。



## Ⅲ. 活動をふりかえって





---

公共施設の豊かな利活用と持続的運営は、人口減少時代を迎える日本の諸都市における大きな課題ですが、横浜市での、「デザインレビュー」、「シンポジウム」、そして、延べ200人の市民が参加した『新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議』（ワークショップ）の開催などを通じた、「市民に開かれた場の創出の取組み」は、次世代の公共施設の計画・運営モデルになるような重要な試みでした。

今回のワークショップでは、参加者一人一人が「ジブンゴト」として考え出した利活用や使い方の提案、運営や管理に関する具体的な議論、市民と職員が一緒になって考える運営コンセプト検討、みんなの「ひろば」宣言の作成など、内容についても進め方についても工夫と成果を得ることができました。

今後、横浜市でも、この成果を大切に受け止めつつ、引き続き市民や様々な主体との対話・協議を進めながらそのあり方を育み続け、創造的な「空間マネジメント」の実現とともに、新市庁舎整備を契機とした新たな公共空間づくりの実践が積極的に発信されてゆくことを期待します。

ファシリテーター 野原卓

ワークショップの参加者が明るく議論されている様子を拝見し、多くの市民が新市庁舎に期待を寄せていることを実感しました。事務局として検討準備したことも含め、大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。

竹中・西松建設共同企業体

皆さまから多様な意見を頂き、ご期待に応えるよう出来るかぎり設計に反映しました。完成後は低層部での活動が多くの方たちに支えられ、港町ヨコハマらしく風通しの良い市庁舎に育てていただき、そして永く愛されることを願っています。

株式会社榎総合計画事務所



# IV. 今後に向けて



このたびは、『新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議(ワークショップ)』に、183名という多くの市民の皆さまに参加していただき、新市庁舎に新たに生まれる「ひろば」について熱心かつ活発に議論していただき、誠にありがとうございました。全ての回においてこれほど盛り上がったワークショップは、前例がなかなかないのではないかと自負しております。

新市庁舎の「ひろば」の整備にあたり、これまでデザインレビュー1回、シンポジウム3回、ワークショップ6回を開催するとともに、企業、大学、NPOなどの皆さまとの対話を行い、多様な分野の皆さまから本当にたくさんのご意見をいただいております。

ワークショップでは、前半3回で「新市庁舎で実現したい活動のアイデア」を提案していただき、後半3回で「新市庁舎の「ひろば」運営に求められるルール・機能、仕組み、キャッチフレーズ」を考えていただくという構成で進め、創造的なアイデアの実現性を高める議論ができたと思います。

事務局のスタッフも、参加者と同じテーブルで議論するとともに、前半のワークショップを踏まえた5つの仮説を職員自らがまとめてプレゼンテーションをさせていただきました。将来の「ひろば」における協働をイメージした取組にチャレンジすることで、他都市に負けない横浜らしい先進的な取組ができたと考えております。

ワークショップの総括として、『ここでわたしが横浜の「未来」をつくる！シェアする！』という『みんなの「ひろば」宣言』をいただきました。さらに、参加者の皆さまに『わたしの「ひろば」宣言』を発表していただき、これからも新市庁舎に関わっていくことを表明していただきました。

こうした皆様の思いを横浜市としてもしっかりと受け止めていきます。具体的には、ワークショップをはじめ、多くの皆さまからいただいた貴重なご意見を新市庁舎低層部の施設計画と管理運営の計画づくりに反映していきたいと考えております。

最後に、ワークショップに参加してくださった方をはじめ、多くの市民の皆さまに平成32年の新市庁舎オープンまで機運の高まりを感じていただくとともに、そしてオープン後のマネジメントについても引き続き関心を持っていただき、豊かな活動の主催者あるいは参加者として『新市庁舎にみんなでつくる「ひろば」』に関わり続けていただければ幸いです。

横浜市総務局新市庁舎整備担当



横浜市市庁舎移転新築工事  
新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議(ワークショップ)  
平成29年4月

- 主催 横浜市総務局新市庁舎整備担当
- ファシリテーター 野原卓准教授(横浜国立大学大学院)
- 運営サポート 竹中・西松建設共同企業体  
株式会社楨総合計画事務所